

運用容量算出における課題の検討について

2019年5月24日

- 昨年度検討条件や課題について運用容量検討会において検討を行ってきた。今年度も引き続き、中・長期的課題について検討を行う。
- 検討条件に関して出た要望に対して対応を審議し必要に応じ課題の追加や進め方の見直しを行う。
- 今年度の検討結果は、12月の運用容量検討会にて取り纏めることとし、今年度完了しなかった件名については、次年度以降検討することとする。

1. 運用容量算出における課題

		今年度の課題	内容	幹事
1	継続	周波数維持限度値算出における需要算出方法変更への対応	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発電端実績が入手できなくなる見通しであることから、送電端値を用いた場合の問題点および対策を検討する 	関西
2	新規	調整力の広域調達に伴う運用容量への影響と対応策	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 調整力の広域調達に伴う運用容量の算出への影響および対策について検討する <ul style="list-style-type: none"> ① ΔKWの確保枠とフリンジの扱い ② 調整力偏在時の系統特性定数の扱い 	全体 広域 ①東地域 ②中西地域
3	新規	三重東近江線作業時の南福光交流連系可否	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 三重東近江線1回線作業時における中部北陸間交流連系の可否について検討する 	中部 北陸
4	新規	周波数制御体系（負荷遮断）の見直しに伴う、連系線運用容量の対応	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 中西地域における59.1Hzでの負荷遮断に伴う、運用容量への影響及び対応について検討を行う。 	広域 中国
5	新規	再エネ増加に伴う電制電源出力の運用容量への織込み方	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 再エネの接続量増加に伴い、電制電源が常にフル出力で運転しているとは限らなくなっていることから、運用容量の算出における電制電源出力の織込み方について検討を行う 	広域 九州